

(3) 都市と農村における1歳6カ月児歯科健康診査結果の比較

森 本 基 ()

1才6か月児の歯科保健状態は、都市部と農村部ではその様相の異なることが知られているが、その状態を明らかにするための研究を行った。

研究対象および方法

1才6か月児歯科健康診査を、東京都練馬保健所で昭和53年4月から55年3月までに受検した2461名と、茨城県茎崎村で昭和53年6月から53年6月から55年1月までに受検した232名について、う蝕罹患状態および歯のよごれの状態とについて比較した。

練馬保健所では、健康診査は歯科医師3名が当り、前期の6か月間はう蝕の検出後に上顎4前歯について染め出しはしないでよごれを測定したが、後期の6か月は、よごれを測定したのち、ブラッシング指導をしてう蝕の検出を行った。

茎崎村では歯科医師1名が、オーラルイルミネーターを用いてう蝕の検出を行い、全歯牙についてそめ出し法を行ってよごれを測定した、そののちにブラッシング指導を行っている。

結果の概要

都市部と農村部の被検者数はおよそ10:1であったが、その結果の概要に次のとおりである。

	都 市 部	農 村 部	比 較 (都市に対して)
被検者数	2461	232	
1人平均現在歯数	14.8	13.5	-1.3
う蝕罹患率	20.3%	13.8%	-6.5%
{ 男	(22.3%)	(15.2%)	
{ 女	(18.0%)	(12.5%)	
う蝕罹患型A型の分布	79.6%	56.3%	-23.3%
う蝕罹患歯率	4.9%	4.6%	著変なし
1人平均う蝕歯数	0.73	0.63	+5.8%
上顎第1乳白歯う蝕罹患率	2.8%	8.3%	+0.8
よごれB~B平均よごれ指数	6.5	9.7	

まずう蝕の状態については、罹患率は都市の方が高い値を示し、罹患型でみても、A型のものは多かった、しかし罹患歯率および1人平均う蝕歯数では両者はあまり差はみとめられなかった。

両者ともに、上顎4前歯は大体20%前後の罹患率を示していたが、他の部位は1~2%程度であった。しかし上顎両側第1乳臼歯では、農村の方が高いようであった。

性差については両者とも男子の方が高率を示した。

よごれについては、上顎4前歯については農村部の方が高い値を示した。歯別においても農村の方が高い値であった。また乳側切歯の方が乳中切歯よりよごれの度合いが高いようであった。

($\frac{BA}{AB}$ ♂ 2.4 2.0 2.1 2.3 ♀ 2.4 2.3 2.3 2.4)

また、 O_1 は都市では74%であるが、農村では O_2 の方が68%であった。

またう歯の有無別にみたよごれの状態は、都市でう歯のないものよごれの指数は1.5う歯のあるものは2.1であった。また O_2 は前者27%で後者は45%であった。

農村では、う歯のないものは2.3であるものは2.4、 O_2 は67%と76%であったが、ともに都市よりも高率であった。

農村部においては女兒の方がやや高い値を示したようであった。

ま と め

以上のことから、う蝕罹患では都市部に、よごれについては農村部で高い値を示し、性別では男子にう蝕罹患が高く、4前歯のよごれでは女兒に高いことがみとめられた。

またう歯検出率で、都市において前期の場合と後期の場合では16.0%に対して、22.0%というようながいのみとめた。これは検出に対するブラッシングの時期のちがいによるものと思われる。

よごれの測定でも、測定者の間でかなりその値にバラツキとみとめ、視診を中心とした検出方法に問題のあることがみとめられた。

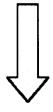
また農村部の場合の検出方法で、上顎4前歯のよごれで口腔内のよごれを代表させることについては、上顎のよごれとは関連するが、下顎のよごれとは一致しないことがみとめられた。

(4) 幼児のう蝕罹患型の分類と予後の推定

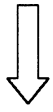
竹内光春 (東京歯科大学口腔衛生学教室)

目 的

昨年度までは、1才6か月児について、竹内らの考案した $\frac{BA}{AB} | \frac{AB}{BA}$ のう蝕罹患状態の組み合わせから、I型、II型、III型の3つに分類したう蝕罹患型による予後について検討し、そ



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



まとめ

以上のことから、う蝕罹患では都市部に、よごれについては農村部で高い値を示し、性別では男子にう蝕罹患が高く、4前歯のよごれでは女兒に高いことがみとめられた。

またう蝕検出率で、都市において前期の場合と後期の場合では16.0%に対して、22.0%というようなちがいをみとめた。これは検出に対するブラッシングの時期のちがいによるものと思われる。

よごれの測定でも、測定者の間でかなりその値にバラツキとみとめ、視診を中心とした検出方法に問題のあることがみとめられた。

また農村部の場合の検出方法で、上顎4前歯のよごれで口腔内のよごれを代表させることについては、上顎のよごれとは間連するが、下顎のよごれとは一致しないことがみとめられた。